

○高木紀久子, 杉原利治 (岐阜大)

【目的】岐阜大学教育学部杉原研究室で開発した、環境学習支援ソフトウェア3部作『私の家庭・みんなの地球』¹⁾《入門編》《学習編》《実践編》のうち《実践編》を用いて、大学生を対象に環境教育を行い、その学習効果を検討した。

【方法】対象は岐阜県内の大学生(133名)である。このソフトウェアを用いて授業を行い、事前に被験者の環境問題以外の物事に対する意識や、環境問題に対する情報経験、保全活動についてなど10項目の実態調査と、自由連想法による言葉の認識調査を行い、さらに授業直後に同一の意識・知識調査と認識調査を行った。また、授業中の個人のソフトの進め方やコンピュータの操作方法などソフトの評価についても調べた。

【結果】《実践編》は中学生以上を対象に作成されたもので、学習者が一日(朝、昼、夕)の生活をシュミレートしていくなかで、環境問題に関する情報や、自分のとった行動による環境への影響をコンピュータ上で経験できるソフトである。授業前と授業後と比較すると、ソフトの内容と関連のある環境問題の内容について、授業による意識・知識の変化、意欲・関心度の増大がみられ、このソフトウェアによる学習効果がみとめられた。また、意識構造とその変化を探るため、多変量解析(因子分析、数量化Ⅲ類)による分析を行った。その結果、環境意識構造は、①空間的、②自意識的、③時間的な3つの軸(尺度)によって記述できることが明らかとなった。環境問題以外の物事に対する個人の意識のあり方や、情報活動の仕方が授業後の意識構造に変化を与えることもわかった。

1) 杉原利治, 日本環境教育学会第6回大会研究発表要旨集(1995), PP158, 178.